

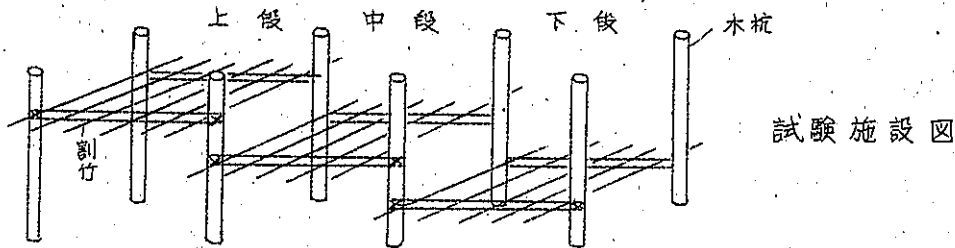
米之津沿岸海苔種子場開拓調査

担当者 技師 九万田 一 己
 〃 瀬戸口 勇

米之津種子場は本県唯一の海苔種子場として昭和27年から県内業者に利用され始め、28年には熊本県から種子場借用があり、良好な成績を収めて、29年、30年と種子場需要は増加し、特に30年は熊本を始め福岡、佐賀三県から種子付けに来場、漸く県内外より注目されるようになったが、当地先も全国的な例に洩れず干拓工事が本格的に着工されて、現在の種子場は今後利用できなくなると思われるので干拓予定地外に種子場を開拓すべく調査を行った。

◎ 調査方法

調査定点(別図)を9ヶ所設定し、各定点には次図のような施設をして、3回に亘り割竹(長さ8尺、巾3分、厚さ1.5~2分)を取り付け、15日後にそれらの割竹を取上げて海苔芽、高畝の着生状況を検鏡調査した。
 特に施設は3段階に分け0.5~1尺間隔に横竹を設置してその上に割竹を水平に取り付けた。



◎ 試験施設の建込及び取上月日

	建込	取上
第1回	10月14日	10月29日
第2回	10月16日	10月31日
第3回	10月18日	11月2日

◎ 各定点別割竹施水位 水位基準; 平均潮位

段階	1	2	3	4	5	6	7	8	9
上段	-33 ^{cm}	+7.5	-2.2	-68.5	-70.5	-32.5	-32.0	-4.5	+31.5
中段	-5.5	-32.5	-5.7	-101.5	-102.5	-68.5	-52.0	-36.5	-4.5
下段	-7.5	-65.5	-8.7	-122.5	-122.5	-90.5	-82.0	-55.5	-32.5

◎ 検鏡結果 次表の通り。

◎ 附着層

各回毎に定点水位別海苔芽着生数を図示すれば別図の通りである。

一般に各種子場における海苔の附着層は、その地先において水平的に一定水位を示しているといわれるが、今回の調査では附着層の水位は限定されておらず、各定点によつて異つてあり、大体の傾向としては地盤の高低と共に変化しているものようである。即ち、地盤の低い処（註、調査の範囲内において）では附着層は低くなつており、地盤の高い処では附着層も高くなつていて何れも地盤上1.5〜3尺の範囲に附着層がみられる。

◎ 種子場としての考察

1. 海苔芽着生状況

一般に、海苔の種子付けにおいて、種子善良好と云われている海苔芽数は、割竹ノ寸当り28〜12.3ヶで、これより少ければ芽着薄く、多ければ濃すぎると云われているが、この調査で一応5ヶ以上の海苔芽着生を示した定点を挙げてみると

ネ1回	St 4 (下)	St 6 (下)	
ネ2回	St 4 (下)	St 5 (中)	St 7 (中), St 8 (中)
ネ3回	St 3 (下), St 4 (中, 下), St 5 (中, 下), St 6 (中), St 7 (下), St 8 (下)		

の通りで

St 3は、	ネ3回目だけ1回
St 4は、	3回共に良好な着生がみられ
St 5は、	ネ2回とネ3回の2回
St 6は、	ネ1回及びネ3回の2回
St 7は、	ネ2回及びネ3回の2回
St 8は、	ネ2回、ネ3回の2回

となつていて、St 4（特に中、下段）が着生良好で、次いでSt 5, St 6, St 7及びSt 8の順である。

2. 害敵の着生状況

海苔種子場は、海苔の着生が良好であると共に害敵の少ない事が条件でなければならぬので、主に害敵生物について検鏡した結果を考察してみる。

繁殖時期や附着層が、「あさくさのり」のそれと似ていて筵の運込期日や棚が適切でないといふ着生し易く、一度発生すると駆除し難いものであるアオノリは軽視できない害敵であるが、

St 1は、	比較的少なく
St 2は、	上段や、着生、中下段多し
St 3は、	多、多い、

- St 4 は、 着生なしか、又はやや着生
- St 5 は、 着生なしか、又は少ない
- St 6 は、 少ない～やや着生
- St 7 は、 下段やや多し
- St 8 は、 上、中段やや着生
- St 9 は、 上、中段やや着生、下段多し。

という状態で、川口に位する St 2, 3, 9 と陸寄りの St 6, 7, 8 の中段、下段にはアオの着生がやや多くみられる。

次いで「硅藻」は、普通「ヨゴレ」又は「下夕」とよわれ茶褐色又は黄褐色の粘質泥状のもので、多く発生する処では浜状に着生して海苔の着生面を占領して種子付けを悪くするが、これは St 3 中段(ホ2回目)、St 9 下段(ホ2回目)に多いだけで、他は何れも少ないか或はやや着生がみられる程度である。

フジツボも海苔着生面を占領し、多く発生するときは浜材を非常に重くするなど厄介な害敵であるが、当地先では極めて少なく低水位にノケ(割竹ノケケ処を換鏡して)見られる程度で、唯 St 9 (ホ2回)下段にノケ見られるのが最も多い。

◎ 結 論

以上の調査だけから適地を断定することは難しいが、海苔芽、害敵着生状況より推定してみると海苔芽の着生が比較的良好で害敵着生の少ない St 4 を中心に St 5, 6, 7, 8 の範囲は、一応種子場として利用できるものと思われる。

併し乍ら、野田川上流にある澱粉工場の廃液は海苔芽をさまたげることありうると思われるので、長期間の運込みは懸念されるところであるが、この点については次期詳細に調査したい。

検 鏡 結 果

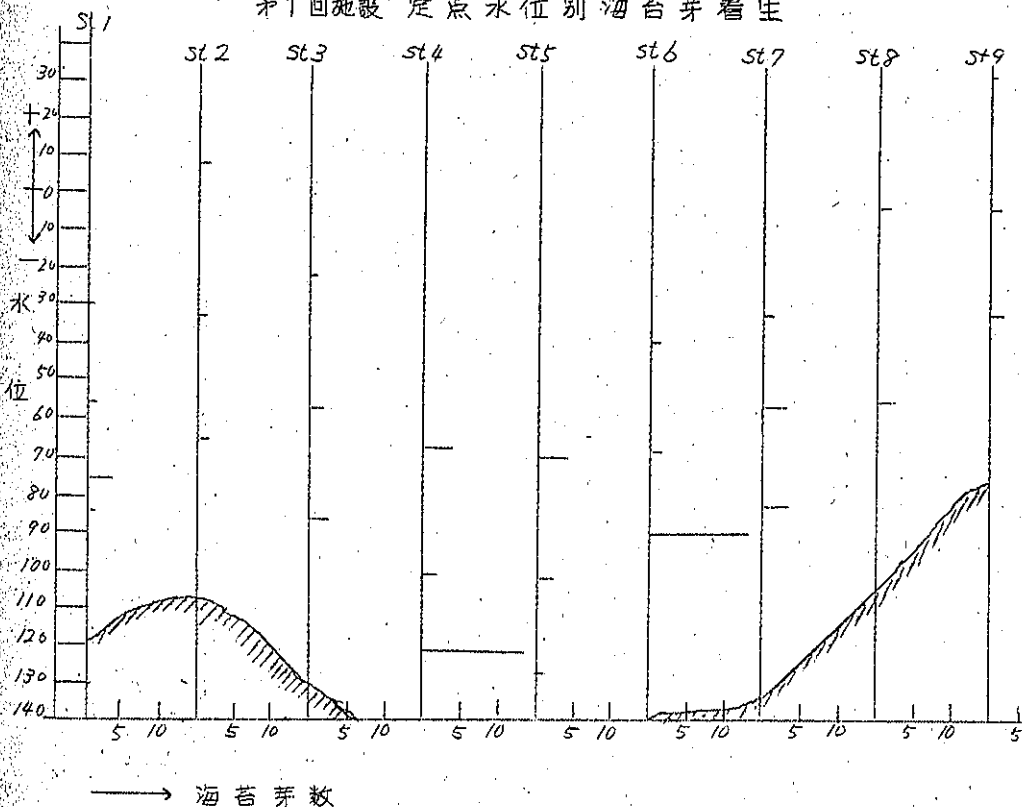
回	段	St 1				St 2				St 3				St 4				St 5			
		ノ	ア	硅	フジツボ	ノ	ア	硅	フジツボ	ノ	ア	硅	フジツボ	ノ	ア	硅	フジツボ	ノ	ア	硅	フジツボ
ホ1回	上												30	少	少	0	25	少	なし	0	
	中					0	多	や	0				12	や	少	0	20	少	なし	0	
	下	27	なし	なし	0	0	多	や	0	13	や	や	1	125	少	少	1	14	少	少	1
ホ2回	上					02	や	や	0				50	なし	なし	0	30	なし	なし	0	
	中									08	多	多	0	69	なし	なし	0	103	なし	なし	1
	下	66	少	少	0	18	多	や	1	43	多	や	2	125	なし	なし	0	27	なし	や	0
ホ3回	上	10	なし	なし	0	0	や	や	0				09	なし	なし	0	18	なし	なし	0	
	中	20	少	少	0	06	多	や	1	40	多	や	0	110	なし	なし	0	25	なし	なし	0
	下	29	少	少	0	45	多	や	0	84	多	や	0	150	少	少	0	105	なし	少	0

回数	段	st 6				st 7				st 8				st 9			
		ノリ	アオ	硅藻	フジツボ	ノリ	アオ	硅藻	フジツボ	ノリ	アオ	硅藻	フジツボ	ノリ	アオ	硅藻	フジツボ
第1回	上	0.5	少	少	0					0.5	や、	少	0	0	や、	や、	0
	中	1.5	少	少	0	2.5	少	や、	0	1.2	や、	少	0	0.8	やや	や、	0
	下	1.0	や、	や、	0	2.8	多	や、	1	2.7	や、	少	1	1.2	や、	や、	1
第2回	上	0.9	や、	少	0	5.0	や、	少	0	1.5	や、	少	0				
	中	6.6	多	や、	0	1.0	多	や、	0	2.0	や、	や、	0	0.5	や、	や、	0
	下	4.7	や、	や、	0	6.0	多	や、	2	18.3	多	や、	0	1.0	多	多	1.3
第3回	上	0.9	や、	少	0	2.0	少	少	0	0.3	や、	少	0	0	や、	や、	0
	中	1.0	や、	や、	0	1.2	多	や、	0	5.0	多	や、	0	0.5	や、	や、	0
	下					11.4	多	やや	0	13.2	多	や、	0	5.2	多	や、	0

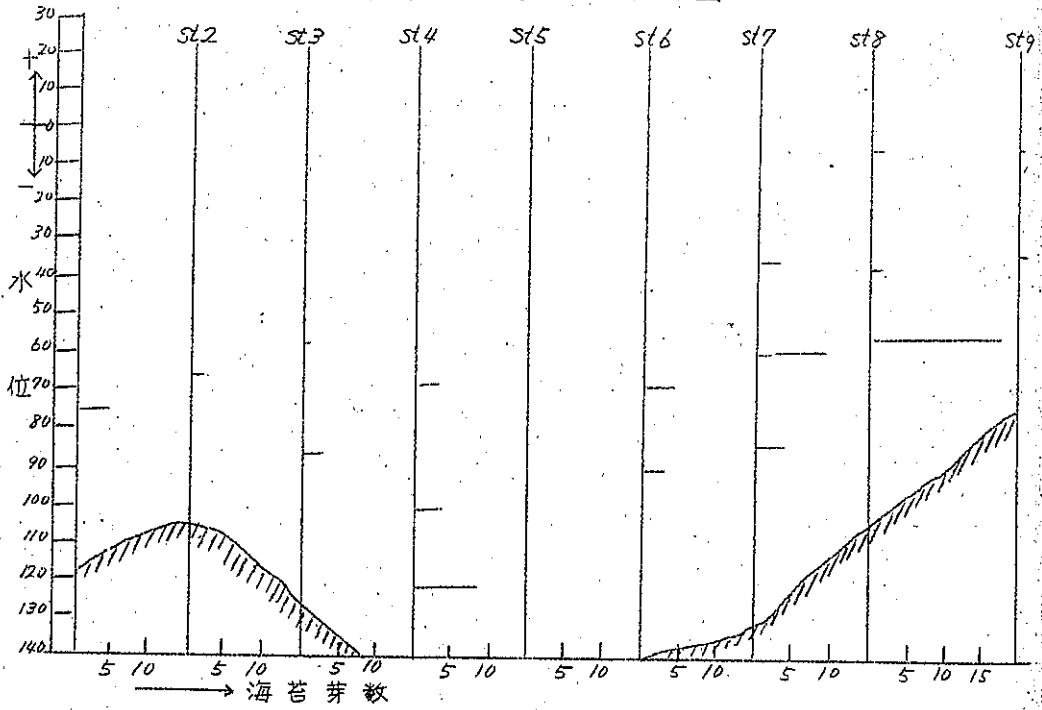
註； 割竹の両側を3~5ヶ所検鏡して、1寸長当りの平均海苔芽数を表わす。

「アオ」「硅藻」はなし、少し、や、溢生、多しの4区分とし、フジツボは検鏡したものの全部を表わす。

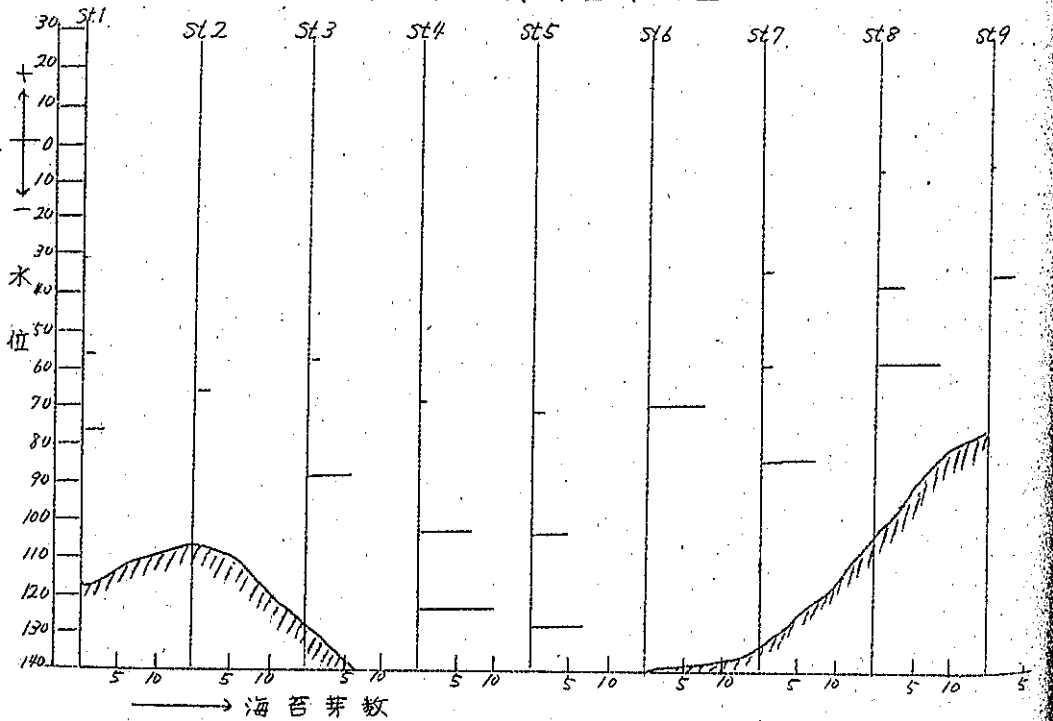
第1回施設 定点水位別海苔芽着生



第2回施設 定点水位別海苔芽着生



第3回施設 定点水位別海苔芽着生



種子場開拓調査定点図

1/15,000

